「バプテスト」になり続ける

加藤　誠
大井バプテスト教会

「バプテスト教会って、どんな教会ですか？」と問われたら、皆さんはどのように答えますか？「浸礼を大切にしている教会です」「一人ひとりの信仰の自由を大切にしています」「牧師も信徒の一人です」「総会を一番大切にする教会です」などなど、いろいろな応答が可能でしょう。

今から約四百年前、英国に誕生したバプテストのグループに注目するとき、そこに見えてくるのは「信徒一人ひとりが聖書を読み、語り合いながら、真のキリスト教会のあり方を追求した群れ」です。たとえばマルチン・ルターという偉大な神学者の聖書理解、教会観のもとに成立したルター派の教会と異なり、神学校を出ていない信徒たちが聖霊の導きを求めて聖書を読み合う中にバプテストの教会は生まれていきました。神学校を卒業して英国国教会に認定された牧師が語る「教会とは／クリスチャンとは……こうあるべし」という教えに対して、信徒たちが「でも、聖書はなんといっているだろう？」と祈りながら聖書を読み、聖書的な教会のあり方を大胆に求めていったのです。そのために英国国教会から見ると「自分勝手な教えに扇動された無秩序な群れ」に映る部分もあったようですが、バプテストの人たちも「一人だけ／一つの教会だけ」では「独善的な聖書理解に陥る危険」を覚えて、アソシエーション（連合）という協力体を形づくり、信仰的に重要な課題については皆で協議し、協力し合うことを大切にしたのでした。しかも、その協力体は教会員数が多く財政規模の大きな教会が主導することなく、各個教会から２名ずつの代表を派遣して、どの教会も平等の立場で責任を負う交わりであった点に特徴があります。

このような最初期のバプテストのグループのありように学ぶとき、私たちが日々「バプテストになり続ける」ことの大切さを示されます。「日本バプテスト連盟」に加盟し、看板に「バプテスト」という文字が書かれていたら、自動的にバプテスト教会だというわけではないのです。「うちの教会は昔からこうしてきたから」「牧師先生がこうしなさいと言われたから」という言葉のもとで一人ひとりが聖書から聴くことをやめてしまい、ただ受け身になってしまう時、その交わりは「バプテスト教会」の活き活きとした命を失ってしまうのではないでしょうか。

信徒一人ひとりが日々祈りつつ聖書を開き、イエス・キリストを告白する信仰をいただいていく。今、私たちが生かされているこの世界におけるキリスト教会のあり方、クリスチャンとしての生き方を聖書に聴いて、お互いに語り合う。「自分ひとりだけ／自分たちの教会だけ」で立つことの危うさを自覚して、み言葉や励ましや慰めを届けあう交わりを大切にしていく。その意味で、教会学校の各クラスが日々「バプテストになり続ける」大切な祈りを共有する交わりとなることを祈っていきたいと思います。

私たち大井バプテスト教会の指針

はじめに

この指針は、2006年10月22日の総会において決議した『大井バプテスト教会の指針作成』に基づき、長期計画合同委員会（長期計画委員会・責任役員会・合同学習会議長団）が、教会に集う私たちの意見を集約、整理し作成したものです。

これは、現時点における私たちの教会形成のビジョンであり、私たちの指針です（この度の主任牧師招聘は、この指針により行われることになります）。

指針前文

私たちは神様の恵みによって呼び集められた教会を感謝し、礼拝を源泉とする奉仕と献金を通じて福音宣教と教会形成に加わることを喜べる教会を目指して、次の指針を定めます。

指針１：信仰の確認

私たちは、バプテスト主義〔注記１〕が理想とする教会形成を目指す群れとして、イエス・キリストを信じる信仰の基盤に次の①～③を共有する。

① 私たちの信仰の中心はイエス・キリストであり、その規範は聖書である。

② イエス・キリストを救い主と信じる者の信仰告白は、浸礼によって確立される。

③ イエス・キリストを救い主と信じる一人ひとりの信仰を尊重し、信仰理解が異なろうとも他を排除しない。

指針２：大切にしていきたいこと

私たちは、教会形成に次の３つを大切にしていくことを確認する。

① 教会学校（信徒による日常伝道・牧会と、聖書の教育）

② 教会音楽（信仰共同体での一致、豊かな神賛美と福音宣教の業）

③ あけぼの幼稚園（聖書に基づく教育と伝道）

指針３：教会運営

私たちは、1970年代に経験した教会闘争（いわゆる風会闘争）〔注記２〕に至るまでの教会の歴史並びにその後の教会の歴史の教訓を確認し、教会運営方針に次の①～⑥を共有する。

① 情報開示（個人のプライバシーに関する事柄を除き、教会運営に関する全ての事柄について情報を開示する）

② 教会総会による意思決定（一部の教会員による教会運営を否定し、教会員の総意に基づく教会運営を行う）

③ 異なる互いを認め合う（人種・言語・思想等、人は神様によって一人ひとりが異なった人格を賜っていることを認識し、それを尊重できる私たちである）

④ 集う一人ひとりを大切にする（長く教会にいる人も新しく教会を訪れた人も、皆神様から愛されている人として大切にできる私たちである）

⑤ あまねく福音を宣べ伝え、教会の成長を目指す。

⑥ 牧師のリーダーシップは固有の権威によらず、イエス・キリストの導きと教会員の委託で成立する。

〔注記 1〕バプテスト主義

1. 自覚的信仰者への全浸礼

自覚的にイエス・キリストを救い主と信じる者に対して、その信仰告白に基づき、キリストにあって神との新しい関係に入ったことの証しとして、浸礼によってバプテスマを授ける。

2. 万人祭司制

すべてのキリスト者は、一人ひとり神の言葉を持ち、バプテスマを受けたときに神によって聖油を注がれて司祭とされているのであり、一人ひとりが説教者である。聖書の解釈権はすべてのキリスト者に与えられている。

3. 会衆教会制

すべて、福音にあずかる会衆によって構成される教会の意思決定と運営は、その会衆の総意によって行われるものであり、その意思決定と運営には会衆のだれでもが参加できるものとする。

4. 個人の尊厳の尊重と信教の自由

すべてのキリスト者は個人として尊重される。聖書の解釈権は個人に与えられ、信教の自由とその発露としての信仰の在り方は、絶対的に保障され、国家及び教会並びに他の者からの干渉を受けない。

5. 聖書中心主義

神と人間との間にはなん人といえども存在することを得ないとすれば、神と人間との関係並びに人間の在り方を律するものは聖書をおいてはほかにはない。信仰を律するものは聖書のみとする。

{注記2} 教会闘争（大井バプテスト教会五十年史43頁～49頁参照）

私たちは、通称「風会闘争」とその意義を抜きにして、大井バプテスト教会の歴史を語ることはできないと考える。

当時、教会の在り方と体質に対する批判を持った青年たちの教会改革運動が起こった。その青年の一部が、1970年を中心に日本各地の教会で起こった「教会闘争」に呼応し混乱に導き、その結果として多くの人達が教会を去った。その歴史の上に今の私たち教会の姿がある。

「風会闘争」以降私たちが大切にしてきた教会の在り方を確認し、それを発展させ、さらに会衆教会として成長することを希求する。

2007年4月15日

長期計画委員会
責任役員会
合同学習会議長団

（2007年5月6日定期総会Ⅱにおいて可決承認）